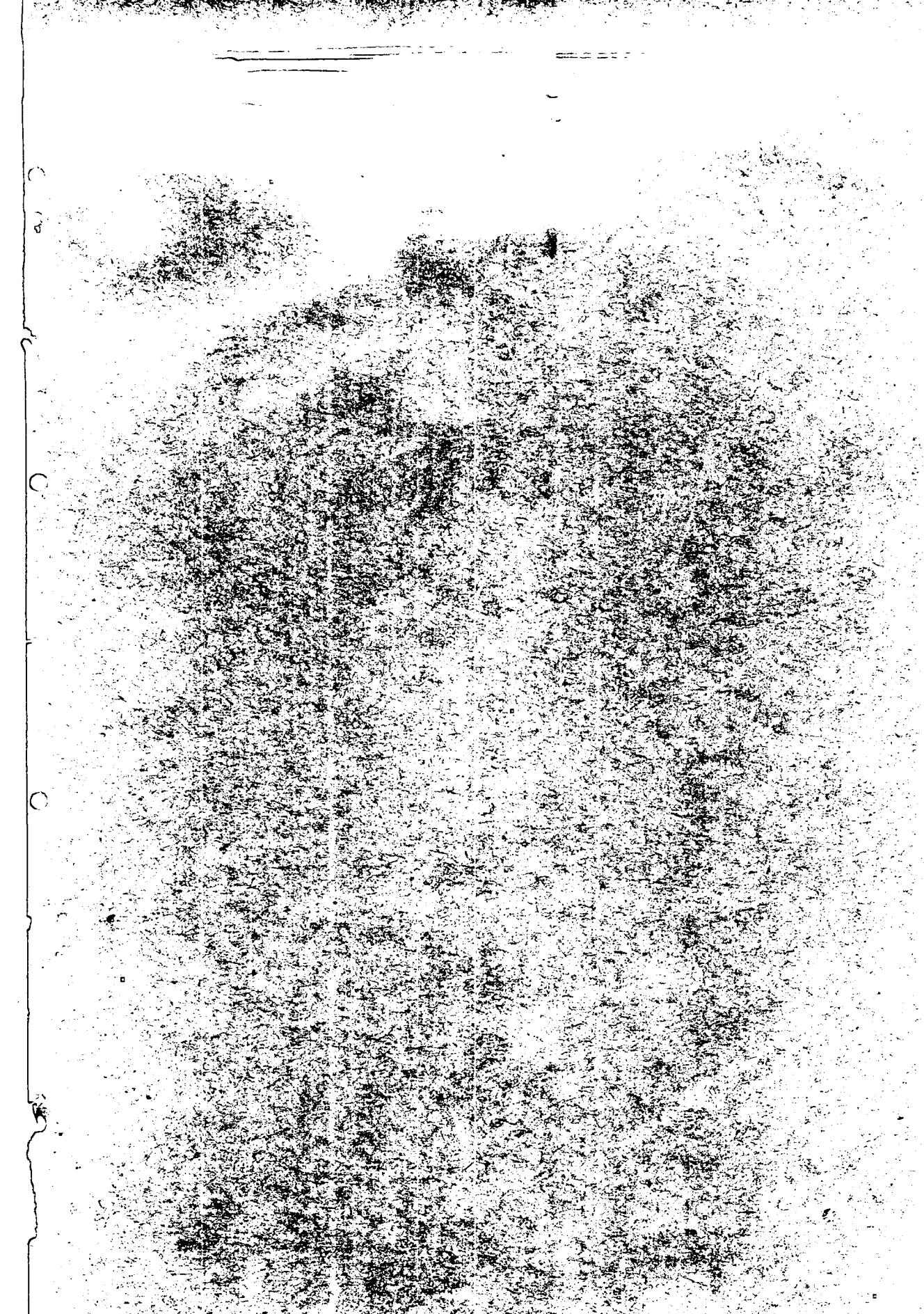


附

錄



土 地 質

本縣ノ土壤ヲ構成スル岩石ハ火成岩、及水成岩ニシテ

(一) 花崗岩地ハ各地ニ現出スレモ各其占ムル所ノ廣袤甚々狹隘ニシテ敦賀郡ノ南部足田村地方及三方郡耳川ノ東西ニ於ケル地方ニアルヲ以テ其面積較大ニシテ多少農業ニ關係ヲ有スルモノトス其他敦賀及三方ノ兩郡ニ跨リ半島形ヲナス土地ヲ構造スル本岩地亦大ナレモ地勢最モ山嶽ニ富ミ耕地ハ山復傾斜ノ地ニ於テ散在スルノミ

(二) 石英玢岩地ハ大野郡ノ各所及吉田、足羽ノ兩郡ニ跨リテ現出スレモ其面積大ナラス其地勢亦峻嶮ニシテ耕耘ニ適スルノ地甚狹少ナリ

(三) 火山岩地ハ三大區域ニ分レテ現出シ其廣袤甚々大ナリト雖モ現在ノ耕地ハ甚々狹少ナリトス本地質ニ係ル土壤ハ角閃安山岩或ハ輝石安山岩ノ分解シタル者ニシテ其表面ノ土壤ハ概シテ埴土ナリ

(四) 片麻岩地ハ大野郡ノ各地ニ露出スレモ其廣袤何レモ極メテ狹隘從テ耕地面積亦甚々狹少ナリ

(五) 閃綠岩及蛇紋岩ハ敦賀及大飯郡ノ一局所ニ露出スレモ重ニ峻嶮溪谷ノ地ニ屬シ土壤ヲ構成スル面積甚々狹隘ニシテ主性トノ關係薄ク且將來農業上太ニ望ヲ屬スヘキ地性ニ於ラス又石英斑岩ノ如キモ大野郡ノ各所ニ點々露出スルト雖土地險阻ニシテ稼穡ニ適スル土壤ヲ構成スル面積亦狹少ナリ

(六) 古生紀岩地ハ本縣中最大區域ヲ占ス其北端ハ今立及丹生ノ兩郡ニ起リ南條郡ヲ貫キ南延シテ近江國及敦賀郡ニ入り同郡ノ中央ニアル花崗岩ニ切斷セラレ再ヒ同郡及三方郡ノ境界ニ露出シ若狹國殆ント全部ヲ貫キ近江、丹波、及丹後ニ

入ル又本縣ノ東北隅ニ於テ小面積ノ土地ヲ構成ス此ノ如ク最廣濶ナル土地ヲ占領スレモ土地悉ク峻嶮ニシテ山嶽高峰或ハ丘陵傾斜ノ地ニ屬シ耕耘ニ適應セルノ地ハ實ニ狹少ナリ而シテ其地形ヲ見ルニ山腹傾斜ノ地或ハ溪流河岸ニ沿フテ星

點スルニ過キサレナリ

(七) 中生紀岩地ハ本縣中各地ニ露出スレモ其廣袤概シテ大ナラス然レモ獨リ大野郡ノ東南隅ニ現出シ越前美濃ノ國界ニアル山脈ヲ構造スルモノハ其面積較々廣濶ナリ而シテ本岩地ノ地勢ハ概シテ山陵峻嶮農耕地トシテ使用スル面積ハ甚々

僅少ニシテ重ニ山腹傾斜ノ地ヲ耕耘シ平坦ナル土地ハ極メテ僅少殆ント之ヲ見サルナリ

(八) 第三紀層ニ屬スル地ハ甚タ廣濶ナル部分ヲ占領ス本紀ヲ構造スル岩種ハ砂岩凝灰岩等ニシテ加賀國江沼郡及坂井郡ノ境界ヲナス山陵ハ本紀ノ岩石ヨリ成リ福井平原及今立郡鯖江四隣ヲ圍繞スル山陵丘阜亦本地層ノ構造ニ係ル者ニシテ漸次南ニ向ケ延長シ南條郡湯尾嶺ニ至テ止マル又丹生郡ノ海岸ニアル丘阜モ亦此地層ノ土地ナリ而シテ其地勢ハ山嶽高嶺ニ乏シク概シテ丘陵ノ形狀ヲ有スレハ多少斜面ヲナセモ其度緩緩ニシテ或ハ平坦砥ノ如キモノアリ

(九) 第四紀古層地ハ本縣中本地質ヲ構造ニ係ルモノ數ヶ所ニ散在露出スレモ多クハ臺地ヲ成ジテ其區域甚タ狹少ナリ然レモ今立郡鯖江地方大野郡勝山町四近及同郡富田村地方ニ於テ或ハ原野ノ形狀ヲ現セモ平坦ナル耕地ヲ構造シ且市街ニ接近シ運輸ノ便アレモ農耕上重要ノ關係ヲ有スルモノナリ

(十) 第四紀新層地ハ本縣内最重要ナル農耕地ニシテ其沖積地ヲ區別スレハ左ノ如シ

(イ) 足羽郡ノ平地ハ足羽川ノ氾濫ニ際シテ沖積シタルモノニシテ其土性ハ埴土ナリ

(ロ) 大野郡大野町四近ノ平地ハ眞名川沖積地ニシテ本地方ノ中央部ニ於テハ埴土ナレモ漸次其周圍ニ至レハ石礫ヲ含有シテ礫質埴土トナル

(ハ) 大野郡勝山町四近ノ地ヨリ坂井郡鳴鹿村西部地方ニ至ル間ノ平地ハ丸頭龍川沖積地ニシテ坂井郡ノ平地ハ悉ク丸頭龍川、足羽川、日野川及其支流ノ働作ニ係ルモノナリ本地方ハ河川ノ平流區域ニ屬スレハ其漂積物亦細微ニシテ一般ニ埴土ナリ然レモ本河流ノ沿岸ニ至レハ屢河水氾濫シテ細粒ノモノヲ淘汰スレハ其土性ハ壤土ナリ又海濱ニ累積セル砂阜ニ接近スル地方ハ屢々風波ノ働作ニヨリ土砂ヲ飛揚シ之ヲ土壤中ニ混淆スルヲ以テ坂井郡西部ノ地方ハ砂土ヲ含有スル事多クシテ自然其土性ハ變ジテ壤土トナル

(ニ) 南條、今立及丹生ノ各郡ヲ貫通スル沖積地ハ日野川及其支流ノ働作ニ係ル者ニシテ其上流ニ於テハ流勢急ナルヲ以テ其構造セル土性ハ壤質埴土ナレモ其下流ニ至レハ其水勢緩漫トナレハ隨テ其地方ノ表土ハ埴土トナリ下層ニ於テハ石礫ヲ混有ス

(ホ) 敦賀灣ニ瀕スル平地ハ河海ノ作用ニ依テ成リ海濱ニアリテハ海成沖積地ニシテ其土性ハ砂土ナレモ漸次内地ニ入ルニ從ヒ笹川沖積地トナリ其土性ハ礫質壤土ナレモ其流末ニ於テハ石礫ヲ含有スルヲ僅少ニシテ砂質トナル

(ヘ) 三方郡ノ海濱ニアル土地ハ海水ノ作用ニ依リテ成ルモノナレハ其土性ハ砂土ナリ又内地ニ於テハ河水ノ働作ニ依リテ沈積シタルモノナレハ其水勢ノ緩急ニヨリ其土性ハ埴土アリ礫質埴土或ハ壤土トナリ現出ス

(ト) 遠敷郡ノ海濱ニ亦海成沖積地アレモ最農耕ニ關係アルハ北川南川及其支流ノ沖積地ニシテ本地ハ全ク古生紀岩層

山嶺丘阜ニ圍メタル一低地ナリ又北川、南川、及其支流ハ共ニ古生紀岩地ヨリ發源シテ其經過スル地方ノ地質亦同一ナレハ其浮流沈積シタル土壤ノ性質ハ殆ント同一ニシテ其大体ノ地味ヲ等フス然レモ河流ノ緩急及平流域ノ長短ニヨリ其器械の組織ヲ異ニス即チ北川ノ谿流ニ於ケル沖積地ハ表土石礫ヲ含有スレハ其土性ハ礫質埴土ナリト雖モ日笠地方ヨリ下流ハ平流域ニ屬シ水勢緩ナルヲ以テ埴土トナリ又南川沖積地ハ稍粘質ニ富ミ之ニ適宜シ砂粉ヲ夾雜スレハ壤質埴土ナリトス

(チ) 大飯郡佐分利川モ其水源及經過スル地方ノ岩層ハ南北兩川ノモノト同一ニシテ古生紀岩地ナレハ其沖積物ノ性質亦相類似ス高濱地方ノ平地ハ海潮ニ關スル器械の操作ニ依テ沈積シタルモノナレハ其性質大ニ前記ノ河水沖積土ト異ナリ其地方ノ山嶺及平源ノ地質ニ關係スル極メテ僅少ナリ

其他石灰岩層アリテ片麻岩、古世紀、中生紀等ノ中各所ニ露出シテ大野郡敦賀郡三方郡等ニアルモノハ其面積極メテ大ナリ

### 福井縣農會事業功程

明治三十九年度ニ於ケル福井縣農會事業ノ大要左ノ如シ

一、會議 明治三十九年度中通常總會及臨時總會ヲ開キシコト各一回ニシテ之ノ議事件數六件ナリ又郡農會長會議ヲ開キ、産業上督勵事項ヲ協議セシコト一回之ノ議事件數六件郡農會技手及業務擔當者協議會ヲ開キ産業施設事業ノ計畫等ヲ打合セルコト一回ナリ

一、品評會 産業ノ獎勵上本會ノ事業トシテ例年開催シ來リシ蔬菜果實品評會ハ第十回ニ至リ同會ヲ今立郡鯖江町ニ開設ス其出品點數二千四十四點出品人員千九百十四人ニシテ之ヲ前面ニ比シ著シキ増加ヲ示シ益盛況ヲ呈セリ今之カ類別ヲ表示スレハ左ノ如シ

郡市	根	菜	葉	菜	果	實	調製品	參考品	合計
福井	九	二七	一	一	一	一	一	一	三六
足羽	二八	一九	一	一	一	一	一	一	九九
吉田	五〇	一七	一	一	一	一	一	一	七五
坂井	二六	一三	一	一	一	一	一	一	一三一

郡	根	菜	葉	菜	果	實	調	製	品	參	考	品	合	計
大野	二二	五二〇	一〇七	四	二二	二二	一	一	一	一〇	一	一	四六	二六〇
今立	八九	二六	二六	七〇	五三	七〇	一	一	一	一	一	一	一八六	一八六
南條	三三	一五	一五	五三	四八	四	一	一	一	一	一	一	九五	九五
敦賀	三三	一八	八	四八	三五	一	一	一	一	一	一	一	八九	八九
三方	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
遠敷	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
大飯	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
其他	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
總計	八三	二四一	九四	七	五九	二〇四								

一、獎勵事業 本年度ハ戰後ノ經營トシテ産業ノ發達増進ヲ圖ルノ必要ヲ認メ役員及技術員ヲ各地ニ派遣シテ農事ノ講  
 話及視察ヲ爲サシメ尙害蟲驅除ノ指導野鼠驅除ヲ督勵スル等之ヲ前年ニ比シ一層努スル所アリタリ  
 一、耕地整理 本事業ニ關シテハ益之レガ施行ヲ求ムルモノ多キヲ加ヘシヲ以テ一方ニ於テハ技術員ヲ增加シ請求ニ應シ  
 テ充分ニ實地踏査及測量設計ヲ爲サシメタリ今明治三十九年度ニ於テ施行シタル耕地整理設計補助ノ箇所ヲ表示スレハ  
 左ノ如シ

郡名	村名	地區面積	同土地價	豫定面積	經費總額	備考
足羽	上文殊村北山新保	二・三六二四歩	八一九七〇	二・三六二四歩	一〇八九九五〇	認可申請済
同	東郷村東郷中島	二・六〇〇五	九七〇四三	二・五二一九		測量済設計中
同	東安居村	三・三九六二八				
吉田	淨法寺村字朽原	六・三八二〇	一〇二・九二〇	七・四八〇	二二〇五五七八	認可申請済
同	西藤嶋村三郎丸、西郷	五四・一三三五				
同	同村地藏堂	三六・三二三	九五六・〇五〇			

名 稱	檢 查 總 數	合 格 數	不 合 格 數	名 稱	檢 查 總 數	合 格 數	不 合 格 數
同 坂 井	同 村 里 別 所	一九七・七二九	七〇二・七三〇	同 坂 井	同 村 里 別 所	一九七・七二九	七〇二・七三〇
同 同	春 江 村 高 江	二・三二六	二・三二六	同 同	春 江 村 高 江	二・三二六	二・三二六
同 同	同 村 沖 布 目	五〇・一〇〇	一一・一八九・六九〇	同 同	同 村 沖 布 目	五〇・一〇〇	一一・一八九・六九〇
同 同	東 十 郷 村 長 畝	一四・一二二	二・九三三・四〇〇	同 同	東 十 郷 村 長 畝	一四・一二二	二・九三三・四〇〇
同 同	本 莊 村 藤 澤	二〇七八二	五・一五三八二〇	同 同	本 莊 村 藤 澤	二〇七八二	五・一五三八二〇
同 同	大 關 村 上 關	五六・二〇二	二・三八二・三八四	同 同	大 關 村 上 關	五六・二〇二	二・三八二・三八四
同 同	本 莊 村 宮 前	一・三三三三二	一・三三三三二	同 同	本 莊 村 宮 前	一・三三三三二	一・三三三三二
大 野	大 野 町	一〇四五・〇一五	九・二八九・一九〇	大 野	大 野 町	一〇四五・〇一五	九・二八九・一九〇
同 同	上 庄 村 稻 郷 一	一・二七九〇〇	二・八二一・二一〇	同 同	上 庄 村 稻 郷 一	一・二七九〇〇	二・八二一・二一〇
同 同	同 村 同 字 二	一五九四二九	一・七五八・六〇〇	同 同	同 村 同 字 二	一五九四二九	一・七五八・六〇〇
同 同	同 村 同 字 三	三・一六二〇	三・一六二〇	同 同	同 村 同 字 三	三・一六二〇	三・一六二〇
同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七	同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七
同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇	同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇
今 立	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五	今 立	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五
同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六	同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六
同 同	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七	同 同	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七
同 同	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇	同 同	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇
同 同	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇	同 同	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇
遠 敷	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇	遠 敷	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇
敦 賀	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇	敦 賀	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇
丹 生	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七	丹 生	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七
同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六	同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六
同 同	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五	同 同	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五
同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇	同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇
同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七	同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七
同 同	同 村 同 字 二	一五九四二九	一・七五八・六〇〇	同 同	同 村 同 字 二	一五九四二九	一・七五八・六〇〇
同 同	同 村 同 字 三	三・一六二〇	三・一六二〇	同 同	同 村 同 字 三	三・一六二〇	三・一六二〇
同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七	同 同	村 岡 村 五 本 寺	九四七二六	一・三五二・九九七
同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇	同 同	上 庄 村 中 据	四七・三三三	二・四七五・〇三〇
同 同	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五	同 同	北 日 野 村 庄 田	一・二七二	四〇・五六〇・九五
同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六	同 同	朝 日 村 馬 場	三・五〇〇〇	三・五一一・九九六
同 同	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七	同 同	織 田 村 織 田	二・三・九二七	二・三・九二七
同 同	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇	同 同	松 原 村 沓 見	二九・〇〇五	九・五八三・八〇〇
同 同	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇	同 同	野 木 村 玉 置	四〇・八一二	一・五五八・〇九〇

一、製絲用蠶種微粒子検査 本事業ノ検査成績ハ一化性蠶種總數六二七八枚 二化性蠶種總數三一一枚ニシテ其種類別  
ヲ表示スルハ左ノ如シ

一化性蠶種

名 稱	檢 查 總 數	合 格 數	不 合 格 數	名 稱	檢 查 總 數	合 格 數	不 合 格 數
光 吟 蠶 姫	二〇二四	一九〇二	一二三	三 浦 姫	六	六	〇
姫 蠶	六六〇	五八八	七二	清 姫	三三	一七	一六

名稱	檢查總數	合格數	不合格數	名稱	檢查總數	合格數	不合格數
又昔	一八五四	一八〇五	四九	中石丸	九	九	〇
角又	三〇	三〇	〇	小丸	五〇	五〇	〇
青熟	一七	一七	〇	銀丸	二四	二四	〇
長巢又昔	五二七	五二七	〇	小錦	六七	六七	〇
絹一	六六	四八	一八	於多福	四二	四二	〇
銀丸	一一	一一	〇	飛白	三三	三三	〇
常陸	八	七	一	中巢	六	二	四
白鶴	二〇	一八	二	銀丸	三	三	〇
白駒	三五四	三三七	三七	櫻丸	一一	一一	〇
白龍	一三	一三	〇	大丸	三三	三三	〇
富士	三三一	二二七	一〇四	總計	六二七八	五八六〇	三三八
新選又昔	一八	一八	〇				

本表ノ事實ヲ府縣別ニ再掲スレハ左ノ如シ

縣名	檢查總數	合格者	不合格數
山形	二二六	二二六	〇
滋賀	五	五	〇
本縣	五九三五	五六二四	三三一
總計	六二七八	五八六〇	三三八

二化性蠶種



名稱	檢查總數	合格數	不合格數	名稱	檢查總數	合格數	不合格數
玉無	二八	二八		珍蠶丸	六七	六七	
銀白	三三	三〇	三	白千分	二	二	
伊形	三	一	二	信濃姫	四	四	
改正丸	一五九	一五七	二	種ヶ島	一	一	
玉稀	二	二		總計	三三三	三〇〇	三三

一、農事試驗 本會農事試驗場ニ於テ明治二十九年中試驗ヲ行ヒタル主ナル農事試驗ノ種類ヲ舉クレハ左ノ如シ

(一) 水稻試驗

品種試驗

豊凶考凶試驗

石灰地方消耗作用試驗

(二) 麥作試驗

大麥品種試驗

(三) 蔬菜類品種試驗

甘藍試驗

漬菜試驗

(四) 框内稻作試驗

偏肥試驗

追肥トシテ綠肥効顯比較試驗

一、種苗配布

農作物種類改良ノ促進ヲ圖ルカ爲メ市役所及ヒ郡農會ヲ經テ篤志栽培希望者ニ果樹ノ苗樹及農作物種子ヲ無代配布セシカ本年於テ配布セシモノハ果樹ニ於テ華果苗七百十八本梨苗千八本桃苗六百本合計三千三百三十六本蔬菜種子ニ於テ菜服三斗六升五合及ヒ水稻種子一石四斗三升五勺ナリ

一、肥料分拆

肥料取締規則施行細則ニ依リ肥料製造業者及販賣業者ノ依頼ニ應シ肥料ノ分拆ヲ爲シタセモ二十件ニシテ農事試験用ニシテ分拆ヲ施行セシモ百四十五件ナリ

一、野鼠ノ驅除

本年度ニ於テ野鼠ノ窒扶斯菌ヲ培養配布シタルノ數八千七百七十六本ニシテ驅除施行ノ反別ハ春秋兩期ヲ合シテ八百十五町歩ナリ

一、畜産事業

(一) 養豚 畜産事業獎勵ノ爲メ良種ノ蕃殖ヲ圖ルカ必要トシ前年來「バークシャイヤ」種ヨリ蕃殖シタル仔豚ヲ種用トシテ當業著ニ拂下ヲ爲シツ、アリ今本年度ニ於ケル之レカ現狀ヲ示セ左ノ如シ

牝	牝	原	生	拂	下	屠	殺	斃	死	年度末現在	産卵拂下數
計	六	六	三三	二七	一	一	一	一	二	三	七
牝	四	四	一六	一三	一	一	一	一	二	三	四
牝	二	二	一七	一四	一	一	一	一	一	一	三

(二) 家禽 養雞ノ原種ハ黑色「ミノルカ」種ヲ専用シ同種ノ蕃殖ヲ圖リ其種卵及雛ハ之ヲ當業者ニ拂下ツ、アリ今年度ニ於ケル狀況ヲ示セ左ノ如シ

雌	雄	別	原	數	生	殖	拂	下	年度末現在	産卵拂下數
計	一〇	一〇	四九	四八	四〇	一八	一八	一八	四七八	
雌	九	九	二四	二四	一七	一六	一六	一六	四七八	
雄	一	一	二四	二四	二七	二	二	二	四七八	

一、昆蟲ノ飼育及驅除試験 本年度ヨリ螟蟲加害ノ程度、螟蟲ノ發生時期、各種誘蛾燈ノ功力、及各種驅蟲劑等ニ付調査セシモ未タ完了セス尙ホ試験ヲ重ネツ、ナリ

一、土工「レール」貸與 本年度ニ於ケル耕地整理事業ニ向テ土工「レール」貸與ノ狀況ハ貸與拾箇所此數量 一五、二九〇尺ナリキ

### 福井縣工業試驗場事業功程

一、地所及建物ノ坪數 (明治三十九年十二月三十一日現在)

地所ハ福井市篠川中町及ヒ吉田郡圓山西村松本地方ニ跨リ其坪數總テ參千坪ナリ  
 建物ノ重ナルモノハ工場、汽罐室、事務室、職工休憩所及ヒ土藏ノ五棟ニシテ門ノ正面ニ玄關(二坪)アリ次ニ二階造リノ事務室(二十四坪)及職工休憩所(十五坪)アリ其後方ニ長方形ナル工場(二百坪)ト汽罐室(二十三坪)アリ又土藏ハ事務室ノ東南ニ位シ四間ニ五間ノ二階造ニシテ其他便所廊下等ヲ合セテ惣建坪三百七坪ナリ

一、据付器械ノ種類及員數 (明治三十九年十二月三十一日調)

一、生糸繰返機	一	臺
一、同再繰返機	二	臺
一、合糸機	五	臺
一、糊付機	三	臺
一、糊付機	三	臺
一、糊付機	三	臺
一、整經機	三	臺
一、管卷機	三	臺
一、力織機	五	臺
一、綜統機	二	臺
一、耳整經機	一	臺
一、手織機	四	臺
一、汽罐機	一	個
一、傳動機	一	式

一、試驗成績

羽二重用糊ノ防腐試驗成績

目的 本場及當業者一般從來使用セル羽二重經系用糊ハ腐敗シ易ク酷暑ノ際ハ一夜ニシテ其効力ヲ失ヒ冬季ト雖數日ヲ保ツ能ハス爲ニ日々使用ノ殘部ハ之ヲ廢棄スルノ不經濟ト一時ニ多量調製シ置ク能ハザル不便ハ斯業上輕々ノ問題ニアラサルヲ認メ之カ研究ヲ行ヒタリ

此試驗ニ供セシ糊ノ調製ハ次ノ如シ

- 水 一斗
- 布海苔 十四匁
- 白蠟 八匁
- 晒膠 壹匁五分

右ノ混合物ヲ二時三十分間煮沸シ全量ノ四分ノ一丈ケ煮詰メ其用ニ供セリ

方法 明治三十九年八月二十八日正午ヨリ同九月五日正午ニ至ル八日間左表ノ如ク各藥品ヲ各別ニ混シ之ヲ放置シ腐敗シテ其効力ヲ失フ迄ノ時日ヲ比較セリ

防腐劑ノ種類	腐敗セザルマテノ日數		
	糊量ノ千分一ヲ混シタルキ	糊量ノ千五分一ヲ混シタルキ	糊量ノ二千分一ヲ混シタルキ
硫酸亞鉛	四日	三日	二日
硼酸曹達	五日	三日	二日
硼酸	三日	二日	一日
フオルマリン	八日	六日	一日

備考

此試驗ノ際ハ暑氣ノ最モ酷シカリシヲ以テ藥品ヲ添加セザルモノハ一夜ニシテ腐敗セリ又ザルチル酸ヲモ試用セシモ此モノハ熱度ニ遭ヒテ糊ノ粘力ヲ消亡セシムルト且多少色相ヲ赤變セシムル欠点アリシヲ認メ之ヲ除ケリ

成績 以上ノ結果ニヨリテ「フオルマリン」ハ最モ好果ヲ呈シ且費用モ廉ナルヲ以テ爾來本場ニ於テハ常ニ之ヲ混用シ且當業者ニ向テモ勸誘シツ、アリ

製作者及箴種類

福井製金箴試驗成績

第一號

福井市尾上下町加藤常三郎製

鯨一寸ノ密度八十枚立二尺四寸用出來上リ二尺六寸

第二號

福井市尾上下町勝木寅吉製

鯨一寸密度八十枚立一尺八寸用出來上リ二尺

目的 從來ノ金箴ハ京都製ニシテ其構造ハ金羽ヲ半圓形ノ鐵棒ニテ挾ミ針金ニテ編ミ付此ヲ「ハンタ」ニテ鑢付シタルモノナルヲ以テ破損ノ場合ニ修繕容易ナラス且當地ニ製造所ナキ爲メ不便ヲ感シタリ即前記兩者ハ共ニ從來ノ竹箴ト製作方同一ニシテ金羽ヲ竹棒ニテ挾ミ糸ヲ以テ編ミタルモノナレバ價格ハ前者ニ比シ約二分一ニ過ス且修繕最モ便ナルヲ認メ之カ耐久力及ヒ使用上製品ニ及ホス影響ニ關シ試驗ヲ行ヒタリ

成績 前記二者共ニ試用中破損ハ場合ハ機臺ニ於テ使用ノ儘修繕シ得ルノミナラス又製品ニ及ホス影響ハ從來ノモノト差異ヲ認メス只試驗ノ時日淺キカ爲メ耐久力ニ於テ未タ詳ニ知ルコトヲ得ス

力織機試驗成績

高柳式力織機 三十九年七月購入

此價格金九拾八圓

機械ノ構造ハ半木製ニシテ製作堅牢裝置簡單ナリ送出シ及「テンブル」ノ備ナク從來手織機用ノ竹伸子ヲ使用スル者ニシテ比較的當地方羽二重ニ採用シ適スルモノト認ム

方法及製織力 該機ニヨリ製織シタル織物種別目付并一日十時間ノ織上尺數等左ノ如シ

織物種別	目付	箴鯨一寸間密度	箴目一目引通シ數	緯鯨一寸間密度	十時間織上尺數
輕目羽二重	六半	百五羽	二本合糸二本	百八十本	三丈五尺
重目羽二重	十二半	九半羽	同 四本	百四十本	二丈八尺
同	十三半	八十羽	同 六本	百二十本	三丈

前表ノ經系ハ十二デニール緯系ハ十四デニールノモノヲ使用セリ

成績 以上試驗中輕目羽二重ハ故障ナカリシモ重目羽二重ノ場合ハ卷取ノ構造ニ於テ未タ盡サレル處アルヲ以テ織始ト織終リトニ於テ漸次打込ノ差ヲ生シテ其他振動ノ爲打付ケ落附カヌ中央部ハ耳ニ近キ部分ニ於テ差地方稱呼ノ「ヒマ」ヲ生スル等ノ欠点アリ八付以上ノ重目ニハ適セサルコトヲ認メタリ而シテ輕目ノ場合ハ手織ヨリモ比較的織班ヲ生セス亦生産力ハ二倍半以上ニシテ且機械ノ狂ヒ及振動等モ少ナキヲ以テ此等製品ニ對シテハ多少ノ改善ヲ加フレハ頗ル有望ナラシ薄絹又ハ絹モスリシノ如キ尤モ輕キ製品ニ對シテ未タ試驗ヲ行ハザリシヲ以テ他日之レカ成績ニ付報告ス

田淵製力織機 明治三十九年十月据付  
價格金百五十拾圓

機械ノ構造 京都市田淵鐵工場ノ製作ニシテ總鐵製ナリ送出シノ裝置ナシ  
方法及製織力 該機ニ依リ製織シタル織物種別目付並ニ一日十時間ノ織上尺數等左ノ如シ

織物種別	目付	箆鯨一寸間密度	箆目一目引通數	緯鯨一寸間密度	十時間織上數
薄絹	二重半	七十枚立	一本モノノ二本通シ	八半二本	四丈五尺
重目羽二重	十二半	八十枚立	一本合モノ四本通シ	百二十本	二丈八尺

前表重目ハ經緯共十四半デニールノ糸ヲ使用シ薄絹ハ前記輕目ノキニ同シ  
成績 以上試驗中欠点ト認メシハ綜統鈞轆軸ト「タペ」ノ關係ニ依リ經系開口等ニ故障ヲ生シ送出シ不着ノ爲メ「ピ」ムノ回轉一定スル事ヲ得ス故ニ經系ノ張リニ張弱ヲ生ズ卷取方ハ「クロ」スビムニ織布卷取ルニ從ヒ漸次回轉ヲ變化スル裝置アルモ完全セサル爲緯系打込ミニ變化ヲ生スルト同一組織ニ於ケル他ノ織機ノ製品ト其ノ重量ヲ異ニスルヲ認ム故ニ尙改造ヲ待ツテ試驗ヲ行フベク中止セリ

木本製力織機 明治三十九年十一月購入  
價格金貳百六十拾圓

機械ノ構造 大坂市木本鐵工場ノ製作ニシテ構造堅牢裝置ハ佛國チユートリッシン會社ノ製作ト同一ニシテ送出シノ裝置アリ總鐵製ニシテ生絹織物ニハ最モ適當ナルカ如シ「テンプル」ハ「ヂユートリッシン」製ノモノヲ應用セリ  
方法及製織力 該機ニ依リ製織シタル織物種別目付并ニ一日十時間ノ織上尺數左ノ如シ

織物種別	目付	箴鯨一寸間密度	箴目一目引通シ數	緯鯨一寸間密度	十時間織上數
薄絹	二半	七十枚立	一本モノ二本通シ	八十二本	六丈
絹モスリン	三	百二十枚立	同 一本通シ	百二十本	四丈
絹紡羽二重	五半	百〇五枚立	同 二本通シ	百七十本	四丈
羽二重	六半	同	二本合モノ二本通シ	百八十本	四丈
川俣羽二重	四半	同	一本モノ二本通シ	百八十本	四丈

前表薄絹ハ經緯共十四デニールヲ用キ絹モスリンハ經緯共十四デニールノ撚糸ニシテ撚ハ一メートル二千五百回ナリ絹紡ハ經ハ十四デニール緯ハ絹紡單系八十番手ヲ用キ川俣ハ經緯トモ十四デニールノ生糸ヲ使用セリ  
 成績 本機ハ内地製中生絹織物ニ對シテハ構造及裝置等最モ完全ニシテ製織中別ニ故障ナク又其製品ハ各種トモ他ノ織機  
 々製品ニ比シ總テ佳良ニシテ且何レモ織班ヲ生スル事稀ナリ

一チユードリッソ製力織機 明治三十六年五月据付  
 平織機價格金四百四拾參圓及五百參拾七圓

綾織機價格金五百四拾圓

機械ノ構造 本機ハ佛國デユードリッソ會社ノ製作ニシテ總鐵製平織機綾織機(下ビー式)ノ二種ニシテ送出シ及ヒ「ランプ」ヲ裝置アリ其構造ハ堅緻ニシテ經糸ノ張ニ強弱ヲ生スルコトナク其他總テノ点ニ於テ生糸織物ニハ適當ナルモノトス  
 方法及製織力 該機ニ依リ製織シタル織物種別目付並一日十時間ノ織上尺數等左ノ如シ

織物種別	目付	箴鯨一寸間密度	箴目一目引通シ數	緯鯨一寸間密度	十時間織上數
羽二重	六半	百五枚立	二本通シ	百八十本	四丈
薄絹	二半	七十枚立	二本通シ	八十二本	六丈
重目羽二重	十三半	八十枚立	四本通シ	百二十本	三丈三尺
絹モスリン	三	百二十枚立	一本通シ	百二十本	四丈
綾羽二重	十	百五枚立	二本合モノ二本通シ	二百本	四丈
二巾薄絹	三半	八枚立	二本通シ	百三十二本	三丈

前表中綾地羽三重ハ經緯共十四デニールノ生糸ヲ使用スニ巾薄絹ト稱シタルハ一尺三寸巾ニ巾織ニシテ各兩耳ヲ組織シ中耳ニハ端ノ二本ハ經系ヲ搦ミ付ケ中ヨリ切斷スルモ經系ハ解ケルコトナキ組織ナリ其他ハ糸扱ハ前記高柳式及木本製ノ部ニ記載シタルモノト同一ナルヲ以テ之ヲ畧ス

成績 本機ハ横造裝置等最モ完全ニシテ以上各種試織中別ニ故障ヲ見出シタルコトナシ本年四月開設第九回關西府縣聯合共進會ハ參考品トシテ前記各機ニ依リ試織セシ製品ヲ出品セリ其種類織方左ノ如シ

第一號

經系 十四デニール 燃回数一タリニ付二千五百回  
緯系 十四デニール 燃回数一タリニ付二千五百回

原系 產地 不詳 名古屋帝國燃系織物株式會社  
原系 價格 拾貫目ニ付金千五拾五圓五拾五錢五厘

機 密 佛國チエーロリヤ會社製  
箎 密 度 鯨一寸ニ付百二十枚立 京都市伊澤信次郎製金箎  
經系 密 度 一目一本通シ鯨一寸ニ付百二十本

緯系 打 込 鯨一寸ニ付百二十本  
丈 織上市二尺五寸延長十二丈

製 高 一日十時間四丈  
量 十二丈モ之共疋百四十四丈

第三號

「デニール」綾羽三重 經緯共 十四半

原系 伊賀國名賀郡猪田村田中機械製系  
原系 價格 拾貫目ニ付金七百圓

機 佛國チエーロリヤ會社製  
箎 密 度 鯨一寸ニ付百五枚立 京都市伊澤信次郎製金箎

經系 密 度 二本合モノ一目二本通シ  
緯系 打 込 四本合モノ鯨一寸ニ付三百本



丈 尺  
製 產  
量 目 高

第三號

「デニール」

原 系  
原 系 價 格  
機 密 度  
經 系 密 度  
緯 系 打 込  
丈 尺  
製 產  
量 目 高

第四號

「デニール」

原 系  
原 系 價 格  
機 密 度  
經 系 密 度  
緯 系 打 込  
丈 尺  
製 產  
量 目 高

練上リ巾二尺四寸 延長十三丈  
一日十時間四丈

十二丈モノ一疋五百四匁 十付

綾羽二重

經緯共 十四半

伊賀國名賀郡猪田村田中機械製系

拾貫目ニ付七百圓

佛國チエートリツシ會社製

鯨一寸ニ付百五枚 京都市伊澤信次郎製金箄

二本合モノ一目二本通シ

三本合モノ鯨一寸ニ付二百十本

練上リ巾二尺四寸 延長十二丈

一日十時間三丈五尺

十二丈モノ一疋三百八十七匁 八付

重目羽三重

經緯共 十四半

伊賀國名賀郡猪田村田中機械製系

拾貫目ニ付七百圓

佛國チエートリツシ會社製

鯨一寸ニ付八十枚立 福井市加藤常次郎製金箄

二本合モノ四本通シ

六本合モノ鯨一寸ニ付百二十本

練上リ巾二尺四寸 延長十二丈

一日十時間三丈二尺

十二丈モノ一疋六百五十八匁 十三半付

第五號

「デニール」

原系

原系價格

機臺

篋密度

經系密度

緯系打込

丈尺

製產高

量目

第六號

「デニール」

原系

原系價格

機臺

篋密度

經系密度

緯系打込

丈尺

製產高

量目

第七號

「デニール」

原系

薄絹

經緯共 十四半

土佐國越知製系

拾貫目ニ付金六百四拾圓

佛國デュートリックン會社製

鯨一寸ニ付七十枚立 福井市勝木寅吉製竹篋

一本モノニ本通シ

一本モノ鯨一寸ニ付八十二本

織上リ巾二尺五寸 延長十二丈

一日十時間六丈

十二丈モノ一疋百二十四匁

羽二重

經十一 緯十四

經系丹後國加佐郡岡田村新宮製系場 緯系土佐國幡多製系場

平均金七百六拾五圓

佛國デュートリックン會社製

鯨一寸ニ付百五枚立 京都伊澤信次郎製金篋

二本合モノニ本通シ

二本合モノ鯨一寸ニ付百八十本

練上リ巾二尺四寸 延長十二丈

一日十時間四丈

十二丈モノ一疋三百廿匁 六半付

川俣羽二重

經緯共 十四

經土佐國越知製系 緯土佐國幡多製系

原系價格 十貫目ニ付平均七百貳拾五圓  
 機臺 大坂市木本鐵工所製  
 箎密度 鯨一寸ニ付百五枚立 京都市伊澤信次郎製金箎  
 一本モノ二本通シ  
 經系密度 二本合モノ鯨一寸ニ付百八十本  
 練上リ巾二尺四寸 延長十二丈  
 一日十時間四丈  
 十二丈モノ一疋二百二十四匁 四半付  
 平羽二重  
 經系十一 緯系十四

第八號

「デニール」

原系價格 經丹後國加佐郡岡田村新宮製系 緯土佐國幅多製系  
 十貫目ニ付平均金七百六拾五圓  
 機臺 大坂市木本鐵工所製  
 箎密度 鯨一寸ニ付百五枚立 京都伊澤信次郎製金箎  
 二本合モノ一疋二本通シ  
 經系密度 二本合モノ鯨一寸ニ付百八十本  
 練上リ巾二尺四寸 延長十二丈  
 一日十時間四丈  
 十二丈モノ一疋三百匁

以上試驗ノ結果ニ就キ之レヲ概括スレハ高柳式ハ價格低廉ニシテ構造及裝置稍整ト捨ツヘキモノニアラス然トモ八付以上ノ重目羽二重ニ向テハ未タ適セサル点ヲ認メ得ベシ木本鐵工場製ハ耐久力及製織品ノ成績ニ於テ前者ニ優ル數等特ニ製品ノ範圍カ前記ノ如ク各種類ニ應用シ得ルノミナラス好良ナル品質ノモノヲ製シ得ル等現在ニアリテ「デユードツッシ」製ト大差ヲ認メス唯價格貴ク高利率ノ資金ヲ以テ工場ヲ組織スル場合ニモ果シテ利益ヲ認メ得ベキヤ否ハ疑問ニ屬スルト一ハ耐久力ニ於テ果シテデユードツッシ會社製ト能ク競争シ得ルヤハ日尙淺キヲ以テ茲ニ推斷ヲ下シ難シ而シテ又デユードツッシ會社製ハ固ヨリ其成績前者ト同一若クハ以上ナルハ言ヲ埃タス生織物用トシテ特ニ薄絹、絹モスリン等ニ應用スルニハ



三 四 五 六 七 八 九 十

月 月 月 月 月 月 月 月

整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線

經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採

四九四一 六三  
五四五六二 二五  
一九五〇八 一四  
五五二五一 七〇  
四四三六四 八八  
七八二六三 一六八  
八二八四六 一二四  
八六六八八 九四  
一四〇

三 四 五 六 七 八 九 十

月 月 月 月 月 月 月 月

整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線 整綜線

經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採 經統採

八八〇五 二〇  
三六三六 一〇  
七二六四 二〇  
四三〇四 一八  
七〇八八 三六  
三六三三 一  
三六 一  
三六三四 二  
四〇一四 二八  
六二〇三 二〇  
三三 三

月別	各機業家ヨリ依頼ヲ受ケタル分			月別	場用トシテ加工ヲ爲セシ分		
	加工名	數量	量		加工名	數量	量
十一月	綜	採	三〇八四一	十一月	綜	採	六、五九九
十二月	整	經	一四	十二月	整	經	一、二二
計	綜	採	六、八〇六	計	綜	採	七、七七〇
	整	經	一〇三		整	經	二八二
	綜	採	四、五二〇		綜	採	五、三九七
	整	經	一〇		整	經	三三
	綜	採	七二		綜	採	一八

其他事業施設ノ景況  
 本年國庫補助金壹千叁百圓ヲ得タルニヨリ更ニ當場經費中ヨリ若干ヲ加ヘ合計金貳千八百拾六圓六拾壹錢ヲ支出シテ米國式燃系機械ヲ本場ニ増設セリ其種類臺數等左ノ如シ

下燃機	百十二	錘立	貳	臺	九百五拾貳圓
上燃機	九十二	錘立	壹	臺	四百參拾壹圓
ワインダ	六十四	窓付	壹	臺	貳百圓
ダブリンク	六十四	窓付	壹	臺	貳百圓
揚返		機	壹	臺	七百貳拾參圓六拾壹錢
附屬品		及			
		運据			
		賃付			
		共費			

蓋シ該機ヲ備付ケタルハ近年本縣下ニ於ケル縞羽二重傘地リボン等燃系ヲ要スル織物漸ク多キヲ加フルト共ニ一ツハ最近世人ノ注目シ來リタル絹モスリンノ製織業ノ如キ本縣當業者ノ大ニ研究スヘキモノトス然ルニ從來縣下ニハ一ツノ燃系工場ナク隨テ盡ク之レヲ京都或ハ名古屋地方ヨリ仰カザルベカラス之レ獨リ經濟上ノ不利ト操業上ノ不便ナルノミナラス斯業ノ發達ニ影響スル處些ナカラズ本場据付ノ錘數ハ固ヨリ盡ク其需用ヲ充ス能ハサルモ然トモ將來當場ニ於ケル燃系織物ニ關スル試驗ニ向テ多大ノ便ヲ得ルト共ニ一ツハ當業者ノ依頼ニ應シ其ノ研究及發達ニ資スル所アラントシ即チ之レカ設

備ヲ敢テセシニアリ

勸業ニ關シ發シタル令達

明治三十九年

令達名	令達番號	月日	件名
縣令	第十五號	三月一日	明治三十五年 <sup>三</sup> 福井縣令第二十一號福井縣立小濱水產學校規則改正
同	第二十一號	四月一日	明治三十五年 <sup>七</sup> 福井縣令第六十三號漁業取締規則中改正
同	第二十三號	四月六日	明治三十六年 <sup>十二</sup> 福井縣令第六十六號同業組合報告事項中改正
同	第二十四號	五月六日	馬匹去勢施行手續
同	第三十一號	六月十六日	明治三十八年 <sup>三</sup> 福井縣令第七號肥料取締法施行細則中改正
同	第三十二號	七月一日	輸出羽二重精練業法施行細則
同	第三十三號	七月一日	明治三十五年 <sup>七</sup> 福井縣令第六十六號害虫種類及驅除豫防方法改正
同	第三十五號	七月十一日	屠場法施行細則
同	第三十六號	七月十六日	明治三十八年 <sup>三</sup> 福井縣令第十二號蠶病豫防法施行手續中改正
同	第四十一號	九月十一日	耕地整理調查設計及工事監督ニ關スル規程
同	第四十七號	十月六日	明治三十八年 <sup>三</sup> 福井縣令第七號肥料取締法施行細則中改正
同	第四十九號	十月二十一日	明治三十七年 <sup>二</sup> 福井縣令第八號度量衡器取締規則中改正
同	第五十一號	十一月二十六日	明治三十七年 <sup>十</sup> 福井縣令第五十一號輸出米檢查規則中改正
告示	第三號	一月十一日	漁業原簿登錄
同	第五號	一月十七日	蠶病豫防吏員罷免
同	第六號	一月二十五日	漁業原簿登錄
同	第七號	一月二十七日	漁業原簿登錄
同	第十四號	二月八日	自明治三十八年度本縣模範範林費中土地買入費繼續年期及支出方法更正
同	第十五號	二月八日	自明治三十九年度本縣勸業費繼續年期及支出方法更正

○附錄

令達名	令達番號	月日	件	名
告示	第十七號	二月八日	保安林解除ノ件森林會ヘ付議	
同	第十八號	二月十一日	稚蠶共同飼育費補助規定	
同	第十九號	二月十一日	保安林解除ノ件森林會ヘ付議	
同	第二十號	二月十五日	保安林解除森林會ヘ附議ノ件	
同	第二十一號	二月十七日	遠洋漁業縣獎勵金下附規程	
同	第二十三號	二月十一日	漁業原簿登錄	
同	第二十五號	二月二十四日	漁業原簿登錄	
同	第二十六號	二月二十八日	農會令第六條第一項ノ條件ヲ具備スル郡農會	
同	第二十七號	三月四日	石川種馬所種付出願ノ牝馬検査期日	
同	第二十九號	三月六日	漁業原簿登錄	
同	第三十號	三月十日	漁業原簿登錄	
同	第三十一號	三月十一日	保安林解除	
同	第三十四號	三月十四日	大飯郡小黒飯漁業組合事務所位置變更認可	
同	第三十五號	三月十四日	本年種牡牛検査期日及場所	
同	第三十六號	三月十四日	本年種牡馬検査期日及場所	
同	第三十七號	三月十五日	春養蠶期中天氣豫報通知ノ件	
同	第三十九號	三月二十一日	東京高等工業學校生徒募集	
同	第四十五號	三月三十日	漁業原簿登錄	
同	第四十七號	三月三十一日	漁業原簿登錄	
同	第四十八號	四月一日	第九回關西府縣聯合共進會規則	
同	第四十九號	四月六日	蠶種製造者ノ蠶室蠶具消毒施行期間	
同	第五十號	四月六日	漁業原簿登錄	
同	第五十七號	四月十一日	明治三十九年度福井縣立福井農學校實習資金歲入歲出追加豫算	
同	第五十八號	四月十一日	明治三十九年度福井縣立小濱水產學校實習資金歲入歲出追加豫算	



同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

第五百五號	第四百四號	第四百二號	第四百一號	第九十五號	第九十四號	第九十二號	第九十一號	第九十號	第八十八號	第八十五號	第八十四號	第八十三號	第八十二號	第七十九號	第七十八號	第七十五號	第七十三號	第七十二號	第六十八號	第六十六號	第六十五號	第五十九號
六月二十一日	六月十六日	六月十一日	六月十一日	六月一日	六月一日	六月一日	五月二十六日	五月二十六日	五月二十一日	五月二十一日	五月十一日	五月十一日	五月六日	五月一日	五月一日	五月一日	四月二十六日	四月二十六日	四月十六日	四月十六日	四月十六日	四月十一日

漁業原簿登錄	漁業免許取消	明治三十九年度畜牛結核病檢査期日及區域	石川種馬所ニ種牡馬ノ種付ヲ出願シ其檢査ニ合格シタル牡馬ニ對スル種付期日及種付所ノ位置	漁業原簿登錄	漁業原簿登錄	漁業原簿登錄	第九回關西聯合共進會出品手續	漁業原簿登錄	保安林解除	不越年原種母蛾檢査開始	蠶病豫防事務所小濱派出所移轉	東京及京都蠶業講習生募集	明治三十九年臨時種牡牛檢査合格證明書下付	蠶病豫防吏員任命	福井縣蠶病豫防事務所派出所開始	漁業原簿登錄	三十九年定期種牡牛檢査合格證明書下付	三十九年定期種牡馬檢査合格證明書下付	蠶病豫防吏員任命	漁業休業認可	漁業原簿登錄	第九回關西聯合共進會出品手續	漁業原簿登錄	保安林解除	不越年原種母蛾檢査開始	蠶病豫防事務所小濱派出所移轉	東京及京都蠶業講習生募集	明治三十九年臨時種牡牛檢査合格證明書下付
--------	--------	---------------------	--	--------	--------	--------	----------------	--------	-------	-------------	----------------	--------------	----------------------	----------	-----------------	--------	--------------------	--------------------	----------	--------	--------	----------------	--------	-------	-------------	----------------	--------------	----------------------

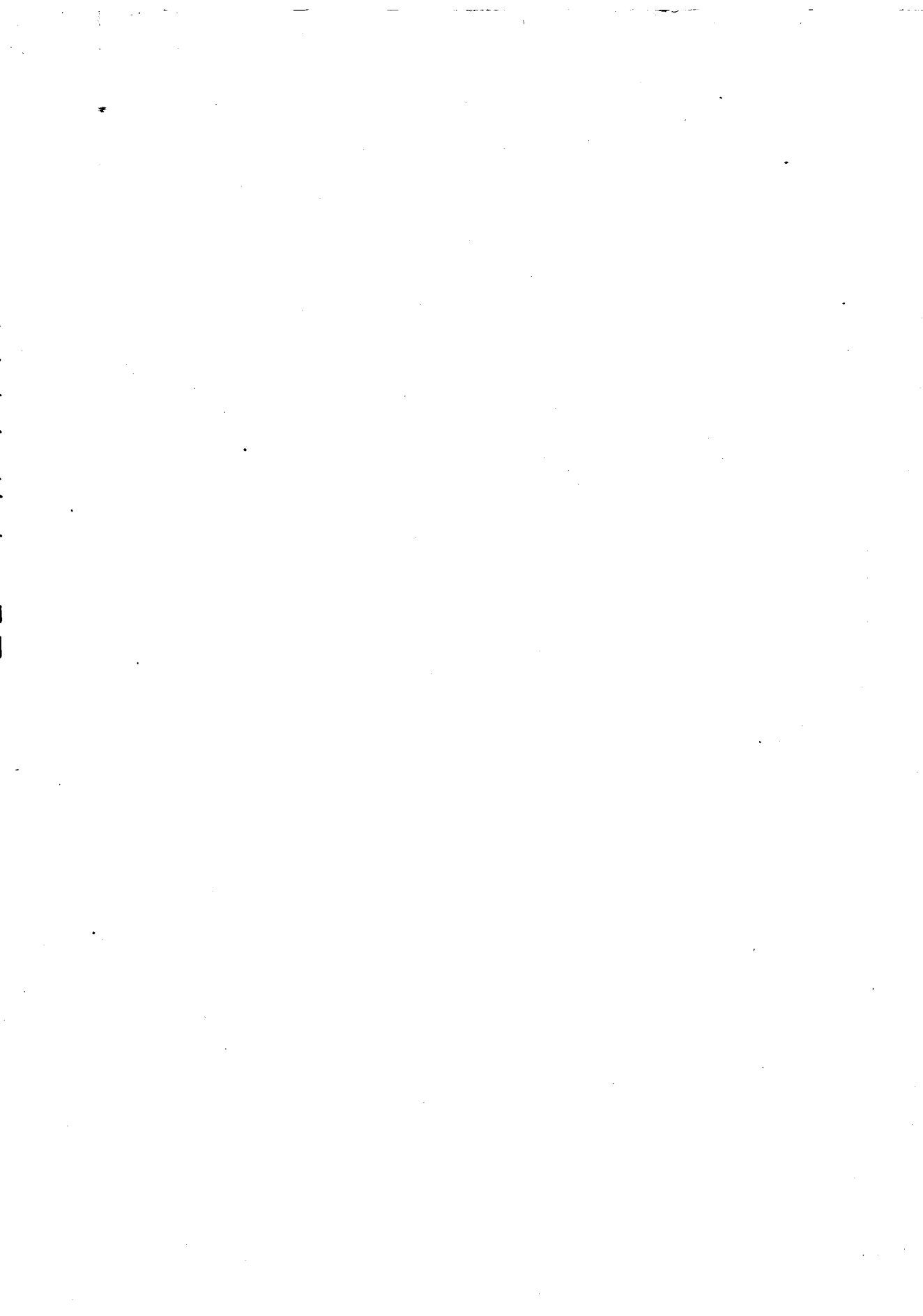
令達名	令達番號	月	日	件	名
告示	第一百六號	六月	二十一日	漁業原簿登錄	
同	第一百九號	六月	二十六日	漁業原簿登錄	
同	第一百十一號	七月	一日	漁業原簿登錄	
同	第一百十七號	七月	十一日	漁業原簿登錄	
同	第一百十九號	七月	十六日	漁業原簿登錄	
同	第一百二十六號	八月	一日	音海漁業組合位置變更	
同	第一百二十七號	八月	一日	明治三十九年四月福井縣告示第四十八號第九回關西府縣聯合共進會規則中追加更正	
同	第一百三十四號	八月	十一日	漁業休業認可	
同	第一百三十九號	八月	二十六日	蠶病豫防事務所各派出所閉鎖	
同	第四百十號	八月	二十六日	蠶病豫防事務所支所設置	
同	第四百一號	八月	二十六日	漁業原簿登錄	
同	第四百十二號	九月	一日	明治三十九年度臨時種牡牛檢查合格證明書下付	
同	第四百十六號	九月	一日	保安林編入解除ノ件福井地方森林會ヘ付議ノ件	
同	第四百十九號	九月	十一日	蠶病豫防吏員罷免	
同	第四百五十號	九月	十一日	保安林編入 <small>今立郡 大野郡 敦賀郡</small>	
同	第五百五十二號	九月	十六日	漁業原簿登錄	
同	第五百五十四號	九月	二十一日	明治三十九年臨時種牡牛檢查合格證明書下付	
同	第五百五十七號	九月	二十一日	遠敷郡内外海村田島濱漁業組合ニ對シ漁業休業認可	
同	第五百六十五號	九月	二十九日	明治三十九年臨時種牡牛檢查合格證明書下付	
同	第五百六十六號	九月	二十九日	漁業原簿登錄	
同	第五百六十七號	九月	二十九日	漁業休業認可	
同	第五百七十二號	十月	六日	漁業休業認可	
同	第五百七十五號	十月	十一日	漁業原簿登錄	
同	第五百七十六號	十月	十六日	保安林解除森林會附議ノ件	

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

令

第一百七十八號	十月十六日
第一百七十九號	十月十六日
第一百八十號	十月二十一日
第一百八十三號	十月二十一日
第一百八十九號	十月二十六日
第一百九十號	十月二十六日
第一百九十七號	十一月一日
第二百一號	十一月十一日
第二百三號	十一月十六日
第二百四號	十一月十六日
第二百五號	十一月十六日
第二百八號	十一月二十六日
第二百十一號	十二月六日
第二百十二號	十二月六日
第二百十三號	十一月十一日
第二百十四號	十二月十一日
第二百十六號	十二月十六日
第二百十九號	十二月二十六日
第二百二十二號	十二月二十六日
第十號	二月八日
第十五號	三月三十日
第二十六號	六月二十六日
第二十七號	六月二十七日
第三十五號	九月二十九日
第三十七號	十月二十一日

漁業原簿登錄  
 漁業休業認可  
 京都蠶業講習所養蠶講習科別科生徒募集  
 明治三十九年臨時種牡牛檢查合格證明書下付  
 漁業原簿登錄  
 漁業休業認可  
 漁業原簿登錄  
 漁業原簿登錄  
 高木治左衛門ニ係ル蠶病豫防吏員證票遺失届出  
 石川種馬所種付出願方  
 漁業原簿登錄  
 保安林解除  
 保安林解除  
 漁業原簿登錄  
 福井縣蠶病豫防事務所大野兩支所閉鎖  
 漁業原簿登錄  
 保安林解除  
 東京帝國農科大學附屬農業教員養成所生徒募集  
 漁業原簿登錄  
 漁業組合員名簿副本  
 明治三十四年福井縣訓令第三十五號害虫驅除豫防監督委員設置規程廢止  
 明治三十七年六月福井縣訓令第三十三號產米督勵委員部設置規程廢止  
 產米督勵委員部設置規程廢止ニ付訓令  
 產米取締規則施行ニ關スル件  
 郡市農業工業林業及水産技師技手設置心得



明治四十一年三月三十日印刷

明治四十一年三月三十一日發行

# 福井縣

印刷者 澤田助太郎

金澤市高岡町九十番地

印刷所 明治印刷株式會社

金澤市高岡町九十番地

電話二十九番

